
こ・く・は・く

遙風 霸鶴渡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「・く・は・く

【ZPDF】

N1778F

【作者名】

遙風 翁鶴渡

【あらすじ】

近藤さんに見つめられて、一ヶ月。今日これは、告白してくれるはずだ……？

最近、同じクラスの近藤しづかと……よく田が合ひみつけになった。

近藤しづかは……僕と田が合ひと、数秒間固まって、ぽつと赤くなつたのち田をそらす。

背後から視線を感じる事だつてあるから、やつぱにれつて……気があるとしか思えねえ。

彼女と視線が合ひみつになつて、調度今日で一ヶ月になる。

毎日毎日、嬉しくて……カレンダーに印をつけてるから確かだよ。カンカンと、チョークが黒板を滑る音を聞きながら、俺は頬を熱くして机三つ分向こうに座る、彼女の横顔を眺めた。

黒く艶やかな髪を後ろに束ねたその横顔は、田鼻立ちがハツキリしているとは決して言えない。

日本人特有のノッペリした顔立ちに、ふつくらした頬……。
けど、よくよく見ると普通にかわいい。

細い目は、切れ長でクールだし、低い鼻は小づくりでかわいいし、唇だってほんのりピンク色だ。……なんかそれは言い過ぎかなあ?
うつしつしつ。

好かれてるつて思つと、意識しちゃうから……いけないや。
いやあ、でもさ、やっぱ……かわいいよ。
どうしちゃ俺、告白しちゃうかな? いやいや、やっぱこには彼女からでしょっつー!

「終わりつ、ここテストに出るからー」

え? ! マジかよ、聞いてなかつたし。

やる気の無い教師が、チャイムの鳴る前に授業を終えた。間も無く鳴った終業チャイムのあとも、俺はノートを必死で[下]す。テストは大切だもんね、授業はどうでもいいけど。

へつへつへつ、次の授業も楽しみだな。

「やべ、間違えたつ」

近藤さあ～ん、早く書かせてよ。

「こや違つ違つ、『連用形』」

俺は、こんなにも待つてゐからうつづ。

「ハートじやねえ、丸だ丸」

「おこ、お前ブツブツきめえぞ……」

隣の席の田中君が、机を氣持ち向いつけたりして、やつぱつた。
「いのんいのん」

「いや……。それより、呼んでるやつへ。」

田中君の視線の先には……なんと一、近藤さんが座るじゃない。俺はガタンと椅子を後ろにやつて、できるだけクールに、教室の隅の近藤さんの元へ歩いて行った。

「な、何だよ？ 近藤」

ぶつきりまづな俺の声に、近藤さんは真っ赤つか。

「あ、あのね……」

やつぱアレだよね？ ローリング告白だよね。ズボンのチャック開いてるよとか、そんなの違うよな。

「あたし、森田君の……」

ちなみに森田は、俺の名だ！ テへ。

「後ろに憑いてる方が好きなの！」

「え？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1778f/>

こ・く・は・く

2010年10月28日08時42分発行